

リフォーム前

●リノベーションまでの経緯

元々は、東西に並んだ二棟の家の東側に親世帯（お父様）、西側に子世帯（ご夫婦+子ども4歳）がそれぞれお住まいでした。

子世帯はお子様の成長に伴い、別の土地に新築住宅を建てる事も検討されましたが、今後の子育てや将来のお父様の高齢化、建築コストなどを考慮して、これから親世帯が並んで暮らす別棟二世帯住宅でのリノベーション計画となり、両棟の一体的な計画を行いました。

今回のリノベーションを機に、東側の床面積の大きな家に子世帯、西側の小さな家に親世帯が、今までと入れ替わりで住まう事となりました。

●新・親世帯 (旧・子世帯)



▲小さく区切られた室内。フスマ上にある欄間は、家族の記憶としてリノベ後も再利用した。



▲室内に大きな段差のあった玄関



▲居間の様子。奥は北向きで暗い台所。



▲脱衣室がなく、出入口や浴槽の段差が大きかった浴室。



▲独立していた洗面。トイレの開きドアと干渉している。



▲南側の外観



▲南西側の外観。広縁の一部は、後から増築されたものであった。基礎が無く構造的に不安定だった為、今回の計画で撤去した。



▲居間から見た客間の様子

●新・子世帯 (旧・親世帯)



▲広縁があり、光が入りにくく薄暗い室内。難く日中でも薄暗い室内。



▲数年前まで高齢者室として使われていた洋室

リフォーム後



▲手前は親世帯への動線となる勝手口



▲ワンルームとした子世帯LDK。右奥は、将来2部屋に仕切る予定の子ども室。



▲LDKに設けた大きな掃き出し窓。目前には、光あふれる庭と菜園が広がる。



▲子世帯の南側外観。手前が増築部分。

●新・親世帯

費用を抑えつつ快適性の向上を目指すため、大掛かりなリノベーションの範囲は、居間・台所・水まわり・玄関など生活のメインとなる部分に絞って計画を進めました。

暗く風通しの悪かった室内は、ワンルームとして計画し光と風を取り込みます。天井を屋根勾配に合わせて高くとり、既存の太鼓梁を化粧材として現しにしました。

将来の高齢化による生活介助を考慮して、今まで分散していた水まわりは一つの空間としました。室内の出入口は、車イスでも使い勝手の良い引き戸とし、特に浴室は入浴介助も行きやすい様に3枚引き戸とし、間口を広くとりました。

他にも室内の段差解消や玄関ポーチのスロープ化、手摺の取付、玄関上り框の段差を小さく抑えるなど、バリアフリー化を行っています。

断熱材の新設により、部分断熱改修も合わせて実施しました。



▲室内の段差解消のため、あえて高さを上げた玄関ドアまでのアプローチは、スロープにて段差を緩和。表面の仕上げは、豆砂利の洗い出しなので滑り止め効果も期待できる。



▲浴室の扉は間口を広く確保



▲高天井とし既存の太鼓梁を化粧仕上げとした親世帯LDK



▲洗面トイレを一室とし、一体的に使える水廻り。

●新・子世帯

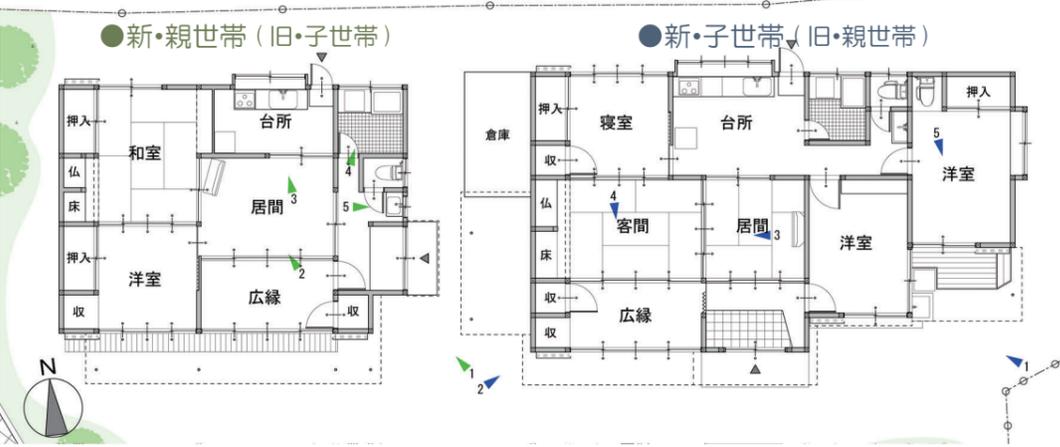
思い入れのあるご実家に長く住み続ける事や今後の子育て・建物の老朽化などを考慮して、増築を含む全面リノベーションとして計画しました。

田の字型に仕切られ、暗く風通しの悪かった居間・台所・客間は、ワンルームのLDKとして、南の庭に面して配置しました。将来DIYにて設置予定のウッドデッキを介して、緑豊かな庭や菜園とつながります。

また、別棟の親世帯にも面しているため、日々のコミュニケーションが取りやすく、二世帯住宅として程良い距離感で互いが過ごせます。

断熱改修においては、断熱材の新設、サッシの取替えなどを行い、外皮平均熱貫流率(UA値)を改修前『3.1W/m²・K』から改修後『0.84W/m²・K』(断熱性能等級4達成)とし断熱性能を確保しました。

耐震補強は、劣化のあった構造材の取替え・金物補強や筋交いの追加などを行い、耐震性能を向上、耐震診断にて安全性を確認しています。



応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
(有)イヤダニ工務店	(有)イヤダニ工務店 設計事務所	(有)イヤダニ工務店	新・親世帯：築35年 新・子世帯：築48年	木造	一戸建て	2019年4月	210日間	2100万円	親世帯：内部リノベーション・部分断熱改修 子世帯：全面リノベーション・増築・断熱改修・耐震補強